

## II コンプ苗まき増殖試験

三木 文興・須藤 潔

### は し が き

本県のコンプ生産は最近約2,000トンとかなり回復しているが、最盛期の約3,000トンには達していない。

そして最盛期にはコンプ生産のあった地先その他の地先で現在雑藻礁或いは海藻類が殆んど生育していない未利用岩礁、礫地帯が広く存在している。

本試験はこのような場所にコンプ種苗を播きつけて人工的にコンプ漁場を造成しようとするものであり、本年度は苗まき試験用種苗を生産するための天然採苗および2年コンプに生残る種苗を検討するための比較養成試験を実施した。

### 試 験 場 所

東津軽郡三厩村地先

### 試 験 期 間

昭和46年10月～47年3月

### 試 験 方 法

延縄式施設を設置して時期別(11月、12月)に天然採苗を行なったが、採苗基質は6mmハイクレロープで、ノレン式とした。ロープの長さは5mで各10本計20本を垂下し、その後のコンプ付着状況を調査した。

養成比較試験はこれらの種苗(約10cmに生長した時期)を水深別(2m、10m)に垂下養成した。

### 試 験 結 果

天然採苗は11月、12月に行なり計画であったが、時化のため実際には12月2日、12月12日に垂下された。

これらの採苗状況について3月13日に調査した結果は別表のとおりである。

この結果からみると、10日間の差であるが、12月2日採苗の方がコンプの付着数も多く、平均葉長もやや大きい値を示しているが、今後の調査結果を待ちたい。

別表 採苗時期別コンプ付着数および葉長

採苗月日	付着数	葉 長
12月2日	66本	1.0～73cm (7.8)
12 12	31	0.5～40 (5.8)

( ) : 平均値

また、所謂根の部分は極めて弱小で苗まき用種苗としてはまだ早いように思われる。

コンブの付着数は、過去の養殖結果では16mmロープでは普通1m当り約100～300本以上の付着を示し、今回の付着はかなり少ない。

苗まき用種苗としては一応ロープ10cm程度が良いと考えており、今回の付着数ではロープ10cm当り3～6本となり極めて少ない。

これはロープの太さも関係しているものと思われるので、今後の生残り結果をみて種苗基質を9～12mm位の太さにする必要があるだろう。

養成比較試験は3月14日に、これらの天然採苗による種苗を使用して垂下試験中であるが、2年コンブへの生残りについては次年度調査する。

また、苗まき試験はコンブの状況、潜水調査の点からみて、次年度5月に行なう計画である。